

琉球古武道 琉棍会 プロフィール

琉棍会(会長) 伊波光太郎 うるま市字田場)は、1973年、琉球棍術研究会、道場「守道館」を旧具志川市田場に設立、今年で45周年を迎える道場・会派であります。

琉球王国時代、武禁政策行われる中、士族の間で武器術の研究が盛んに行われましたが、時代の変遷により後継者が少なくなり、ひとりが一つの型を保持する方たちで地方に分散し、しかも保持者が高齢であった事から、集成に苦勞の連続でした。

今から六十数年ほど前、伊波光太郎氏が保持者に出向き、修業継承すること、現在まで残されており、その型や術技を集成して、1981年に前身の琉球棍術研究会から琉球古武道 琉棍会に名称を改め現在に至ります。

「空手、古武道の型は、歴史的過程において必然的に武術、武道の資質をおびるものである。」という考えに基づき、単なる伝統の継承だけでは、基本的理念を歪曲するおそれがあります。

日々の修行過程において、武術としての生死感や完全防御、一撃必殺の技術性と力の技芸となります。

我々は、沖縄の空手と共に棒術、サイ術等の古武道を貴重な沖縄の伝統文化遺産、伝統武道として位置づけて、日夜、鍛錬を重ねる中で正しい承継、伝授につとめております。